

憧れの宮坂忠夫先生との出会いと思い出 —学会創設前史から1990年代を中心に—

島内 憲夫^{*1}

抄録：本稿では、憧れの宮坂忠夫先生との出会いと思い出を振り返った。学会設立の前年の1990年、宮坂先生から、日本健康教育学会の設立と常任理事への就任の話があった。1952～1953年アメリカのハーバード大学公衆衛生大学院に留学された宮坂先生は当時、日本における健康教育理論の先駆的リーダーであり、宮坂先生の依頼を大変光栄に思ったことを覚えている。また、宮坂先生は、女子栄養大学大学院修士課程保健学専攻の新設の時に「ヘルスプロモーション特論」の講義のお話もくださった。先生のライバルである山本幹夫先生が率いる順天堂大学体育学部に所属していた私は、戸惑う一方で心躍る気持ちであった。宮坂先生との思い出を振り返り、先生に対する感謝の気持ちを改めて感じる次第である。今後も宮坂先生への憧れと健康教育への熱き思いを大切にして、健康教育・ヘルスプロモーション分野の発展並びに人材育成に貢献していきたい。

〔日健教誌，2014；22(追悼)：62-65〕

キーワード：憧れ，健康教育，ヘルスプロモーション，学会，理論

初めに、日本健康教育学会の設立に心血を注いだ宮坂忠夫先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

日本健康教育学会は、1991年に設立されたが、その1年前の1990年に東京大学医学部保健学科教授の宮坂先生から「日本健康教育学会を創りたい、ついでには先生に常任理事の1人に就任して欲しい」と話があった。最初の常任理事は、宮坂忠夫、山本幹夫、江口篤志、川田智恵子、そして私（島内憲夫）の5人であった。

宮坂先生の依頼を大変光栄に思ったことを覚えている。と同時に「近い将来ヘルスプロモーションの言葉を日本語にして、例えば、日本健康教育推進学会あるいは日本健康教育創造学会にして頂きたい」とお願いしたことも鮮明に覚えている。

^{*1} 順天堂大学大学院

連絡先：島内憲夫

住所：〒270-1695 千葉県印西市平賀学台1-1

順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科

TEL & FAX：0476-98-1118

E-mail：happynorio@msn.com

その時、宮坂先生は「英文は、Japanese Society of Health Education and Promotionなので promotion は入っていますよ」と答えられた。残念ながら、現在でも promotion という言葉は日本語に訳されることなく学会は日本健康教育学会のままである。私がヘルスプロモーションにこだわるのは、人々の健康の解明と支援は健康教育学だけでは可能とまらないからである。なぜなら、人々の健康の解明と支援は、学際的なアプローチを必要としているからである。

思えば、宮坂先生から声をかけられた時、私は40歳であった。そして、1986年にデンマークのコペンハーゲン大学医学部に留学中にWHOヨーロッパ地域事務局のイローナ・キックブッシュ博士との運命の出逢いで「ヘルスプロモーションに関するオタワ憲章」¹⁾を知るようになった。以来、「WHOのヘルスプロモーション」を広めることを意識して、帰国後の1987年に健康社会学研究会を大学の先輩の小山修先生等と一緒に設立し、代表としてヘルスプロモーションの推進に取り組んでいた。当時、会員は200名を越えていたので、宮坂

先生からお誘いがあったものと推察している。東京大学の赤門前の学士会館分館で設立準備のための委員会が開催された時に、私と私が推薦した小山修先生と一緒に暖炉の側の椅子に腰かけて、宮坂先生としばし語り合ったことが昨日のようである。宮坂先生は、学生時代から憧れの先生で、ある意味雲の上の人だった。正直なところ「一緒に居ていいのか」と思っていた。しかし、私も「ヘルスプロモーションを日本の津々浦々に広げる」と言った信念を貫くことをモットーとしていたこともあり、思い切って先ほどのような思いを宮坂先生に伝えた訳である。

当時の宮坂先生²⁾は、日本における健康教育理論の先駆的リーダーとして、一世を風靡していた健康教育研究者であった。そのスタートは、宮坂先生のアメリカのハーバード大学公衆衛生大学院への留学（1952（昭和27）年～1953（昭和28）年）ではなかったかと推察している。なぜなら、日本では「健康教育の第一人者は誰か」とたずねれば、「宮坂忠夫先生でしょう」と誰しもが答える先生だったからである。それを裏付けるように、宮坂先生の帰国後、健康教育が瞬く間に、日本の津々浦々に広がっていったからでもある。また、アメリカにおける健康科学分野の先駆的リーダーの1人であるレベルとクラーク（Leavell HR and Clark EG）の理論との出会いは、宮坂先生の健康教育理論の考え方を確固たるものにしたと推察する。なぜなら、レベルとクラークの考え方は、予防医学の5段階に基づき、従来の健康教育の主眼であった「疾病の予防教育」を「健康増進・疾病予防・治療・リハビリテーション」をも包含する健康教育にまで拡大したからである。宮坂先生の健康教育の目的は、幅広い意味では「健康の保持増進」にあるが、健康教育固有の目的も考えていた。それは「取り上げられた健康問題について、(1)対象の人たちが正しい知識や理解をもつこと（知識の習得、理解）、(2)好ましい態度をもつこと（態度の変容）、(3)必要なことを実行し、よくないことをやめること（行動の変容）」である。

ここで、宮坂先生のライバルである私の恩師の山本幹夫先生³⁾のことについても語っておきたい。その理由は、東京大学医学部出身者・同門でありながら、宮坂先生とは全く違った考え方を打ち出した先生だからである。山本先生は、ロジャース（Rogers ES）の人間生態学の考え方を健康教育学の分野に導入した先生である。山本先生は、「人間生態学では個人やその集団によって営まれる生活は、生活主体（host）たる人と、人を取り巻く物理的・生物的または社会的な環境とのきわめて複雑な相関関係において営まれており、この相関関係のバランスが損なわれて、人の活動が円滑に行われないときに不健康状態が起こる」と推論している。このような山本先生の考えは、結果的に学際的アプローチ（自然科学と社会・人文科学の統合）の必要性を生み出した。その結果、健康教育も「複雑な人間生活を十分に分析して、健康状態との関連を明らかにするために、あらゆる科学の方法や技術を活用する」方向、すなわちヘルスプロモーションの方向にシフトして行くことになったのである。

いずれにしても、宮坂先生と山本先生の新しい健康教育理論は、日本での健康教育の幕開けとなり歴史的なターニングポイントであったと思う⁴⁾。

さて、世界の健康教育に目を転じてみれば、健康教育国際会議（International Union of Health Education: IUHE）は、1995年の幕張メッセで健康教育とヘルスプロモーションを合体して、ヘルスプロモーションを上位に置き、第15回 International Union of Health Promotion and Education（IUHPE）として開催された。丁度、私が45歳の時であったが、この誘致のプロセスに遭遇した者として、事実をお伝えしておきたいと思う。それは、宮坂先生とライバルであった東京大学医学部卒の恩師の順天堂大学体育学部教授の山本幹夫先生が、第14回健康教育国際会議（International Union of Health Education: IUHE）において、第15回の会議を日本に誘致すべくロビー活動を積極的にしていたからである。山本先生の努力がなければ、

日本での開催はできなかったかもしれないからである。知る人ぞ知る話である。

最後に、宮坂先生に心よりお礼を申し上げたい。私が今日あるのは、宮坂先生が、順天堂大学体育学部健康教育学専攻の学生時代、大学院時代、その後の教員時代を含めて一貫して、私の心の中に憧れの人として存在すると共に、私を学問的にエンカレッジし続けて下さったお蔭であると思っているからである。

また、山本幹夫先生が率いる順天堂大学体育学部健康教育学専攻課程に所属する私にとっては、宮坂忠夫先生の率いる東京大学医学部保健学科は、ライバルであったことも自らの成長にとって幸いであった。

さらに、私の思いとは裏腹に、女子栄養大学大学院修士課程保健学専攻の新設の時、「ヘルスプロモーション特論」の講義を宮坂先生から依頼された時は、心の中で「ライバル校の宮坂先生から何故に私にヘルスプロモーション特論の講義の依頼がくるのか」正直戸惑いを禁じ得なかった。しかしながら、その時「心躍る気持ちが湧き上がって

きたこと」を今でも忘れていない。心より感謝申し上げます次第である。

最後に、以前もそうであったように、今後も宮坂先生への憧れと健康教育への熱き思いを大切に、健康教育・ヘルスプロモーション分野の発展並びに人材育成に貢献していくことを誓い、筆を置きたい。

利益相反

利益相反に相当する事項はない。

文 献

- 1) 島内憲夫, 鈴木美奈子. ヘルスプロモーション～WHO～オタワ憲章～. 東京: 垣内出版; 2013.
- 2) 宮坂忠夫, 川田智恵子. 最新保健学講座 健康教育論. 東京: メディカルフレンド社; 1984.
- 3) 山本幹夫. 健康管理論—実践的公衆衛生学—. 東京: 光生館; 1975.
- 4) 島内憲夫. 健康教育の展望. 久常節子, 島内節編. 地域保健学講座③健康教育と学習. 東京: 医学書院; 1994. 175-195.
(受付 2014.2.7.; 受理 2014.3.10.)

The encounter and memory of Dr. Tadao Miyasaka with admiration

Norio SHIMANOUCHI*¹

Abstract

Objective: In this manuscript, I will describe how I met Dr. Tadao Miyasaka and what I have learned from him in the field of health education and promotion. .

Contents: In 1990, the year before establishing the Japanese Society of Health Education and Promotion, he approached me with a proposal of establishing the society and asked me to work as one of the executive committee members. Dr. Miyasaka studied health education in the Graduate School of Public Health, Harvard University, and used to be considered as the pioneering leader of health educational theory in Japan at that time. Because of this, I remember that I was deeply honored by his request. He also proposed me to give "a special lecture on health promotion" for the newly established master course in the Graduate School of Health Sciences, Kagawa Nutrition University. As I used to belong to the School of Health and Physical Education, Juntendo University led by his rival, Dr. Mikio Yamamoto, I hesitated, but I, at the same time, felt excited and very happy about it.

Conclusion: I feel gratitude to him for his kind friendship over and over again. Like he did, I would like to keep my passion for health education and promotion and to grow human resources in this field.

[JJHEP, 2014 ; 22 (Suppl.) : 62-65]

Key words: admiration, health education, health promotion, societies, theories

*¹ Graduate School of Juntendo University